BEST HiFi Accessory
2025 AUTUMN

Profile┆光城精工は、設立35周年を記念して「35thアニバーサリ+Jtuneモデル」として、ハイエンド電源ボックス「Platinum 4-VP」と「Platinum 6-VP」をそれぞれ世界各50台限定で販売する。これらのモデルは、従来の電源ボックスとは異なりプリント基板による電源供給方式を採用し大容量を実現。電源ラインの静電シールドや、低インピーダンス化を図り、ノイズ抑制効果をもたらしている。また、振動対策として「Mechanical Isolation System（M.I.S）」が採用。安定性を向上させるために素材にもこだわっている。

光城精工の会社創立35周年を記念したモデル
仮想アース技術をさらに発展させた電源ボックスのフラッグシップモデル

Text by
小原由夫
Yoshio Obara
Photo by 田代法生

KOJO TECHNOLOGY

Platinum 6-VP

電源ボックス
¥435,600（税込）
※2025年9月5日発売予定
50台の限定生産

Specifications

●電圧:AC100V（定格AC125V）●周波数:50／60Hz●容量:1,500VA●相数:単相アース付き●ライン導体表面積(typ.):N/L／69,000cm^2、GND／81,000cm^2●絶縁耐圧:AC1,500V 1分間●絶縁抵抗:DC500V 100MΩ以上●インレット:3Pインレット（IEC60320 C14）●コンセント:3Pコンセント（NEMA5-15R）×6口●外形（アース端子含まず）:90W×63.8H×489Dmm●質量:3.3kg●付属品:マニュアル、保証書●取り扱い:（株）光城精工

内部配線がプリント基板
仮想アース技術を果敢に投入

光城精工の近年の製品動向を振り替えると、仮想アース機器に注力してきたことが見てとれる。しかし、同社のもともとの生業は電源機器で（産業用のそれをオーディオ用に応用）、優れたレギュレーターや電源タップを製品化してきた生い立ちがある。今回発表されたPlatinum6-VPとPlatinum4-VPは、50台の世界限定数量で販売されるハイエンド電源タップで、ここ数年の仮想アース機器で培われた独自のテクノロジーが積極果敢に活かされている点に注目したい。

一般に電源タップの内部配線には、導電性の高い電線、または金属製プレート（ブスバー）が使われる。しかしPlatinum6-VP／4-VPの内部配線は、なんとプリント基板。より具体的に記述すると、両面スルーホールで、銅箔の厚みが片面70ミクロン（両面で140ミクロン、汎用基板は片面35ミクロン）だ。

この手法は、何を隠そう仮想アースの低インピーダンス化そのもの。つまりPlatinum6-VP／4-VPは、仮想アースの表面積増大による低インピーダンスを活用して電源タップの電力供給を行う、おそらくは世界初の電源タップなのである。

本品に採用されている基板の合計導体サイズは、厚さ140ミクロン／幅37・5㎜。これは5・5スケア（5・5㎠）の太さの電源ケーブルに相当する。

また、そのパターンレイアウトは、タップの入口に当たるインレットから6口、4口それぞれの出力コンセントにストレートで配線されている。アースライン（G）は、電源のニュートラルライン（N）とライブライン（L）でサンドイッチされており、電源ライン間の静電シールドとして作用する。

仮想アース技術による表面積増大のもうひとつの手法が、アルミ電解コンデンサーの電極表面積の活用だ。前述のN／Lライン、Gラインいずれも、出力コンセント毎に2個の電解コンデンサー（表面実装型）を配置。Platinum4-VPでは、4万6000平方㎝という広大な面積が確保された。このオリジナル・テクノロジーによって、特に10kHz以上の高周波域における低インピーダンス化を実現。300kHzにおいては、2スケア銅線の半分以下のインピーダンスとなっている。

これだけに止まらず、さらに低インピーダンス化を徹底させているのが本品のミソ。筐体に備えられたアース端子にスティック型の仮想アースを取り付け可能とした。もちろん空いているコンセントにプラグ型仮想アースも追加できる。

肝心な点に触れておく。本品はかつて類例のない内部構造の電源タップであるが、「PSE（電気用品安全法）」の認証はしっかり取得しているので安心して使用できることを書き添えておく。

高剛性と堅牢性が確保された
厳重な筐体設計が目を惹く

本品は筐体設計も厳重だ。「M・I・S・（Mechanical Isolation System）」は、トップカバー／サブシャーシユニット／メインボディ／ボトムシャーシの4ピースから成り、サブシャーシユニットはトップカバーから吊り下げられた構造。連結部には「M2052（マンガンと銅、ニッケル、鉄からなる合金で、制振性を有する）」制振ワッシャーを採用、サブシャーシユニットは完全にアイソレートされた状態となる。これら部材は、アルミニウム、スチール、ステンレス鋼が適宜吟味して使われており、高い剛性と堅牢性を確保。また、ハネナイト等の併用で防振も図られている。トップカバーはサンドブラスト加工にアルマイト処理で、意匠面にもこだわった。

なお、コンセントやインレットは、汎用的なホスピタルグレード品（明工社製）が使われているが、これは何らかのクセやカラーリングを憂慮しての選択。プリント基板には単線で直付けとなっている。専用設計のインシュレーターは、底面にハネナイトを貼付したもので、富士山をモチーフに形状がデザインされた。取り外しが可能で、付属工具によって3点支持にも変更可能だ（出荷時は取り外された状態で4個同梱）。

ちなみに本品は同社創業35周年を兼ねたアニバーサリーモデルで、『ジョンがる隊長』のハンドルネームでSNS等でも親しまれている同社の名物取締役部長による「Jtune（ジェイ・チューン）モデル」として企画開発された。先着35名には、特別チューニングされた非売品の電源ケーブルがプレゼントされる。

圧倒的なS／Nの中から
突如音が放たれる感覚

試聴はネットワークプレーヤーとプリアンプの電源供給にて、オーディオ用に設計された汎用6口タップとPlatinum6-VPを比較した。

音が出てしばらくして、圧倒的なS／Nに引き込まれる。無音状態から突如音が放たれる感覚で、静謐感、静寂感が素晴らしい。

サマラ・ジョイの歌声は、表現力の深さと声量の豊かさが感じられる再生音で、瑞々しくて滑らかな質感再現。音像フォルムの確かさを感じると共に、アンサンブルやリズムセクションの広がりと定位など、ステレオイメージの奥行きの見通しがすこぶる良好だ。

上原ひろみでは重心の低い安定したピラミッドバランスの再現で、汎用電源タップと比べてダイナミックレンジや情報量で大きな差を感じた。実にフレッシュな音だ。

ショスタコーヴィチのヴァイオリン協奏曲では、独奏ヴァイオリンの音像がスクッと屹立する。小さな演奏家とオーケストラが眼前に展開するような迫真さがあった。

過去に出会った電源タップの中で、本品は間違いなく最高峰と断言できる逸品だ。再生音の自然さに聴き惚れた電源タップを初めて経験した思いである。

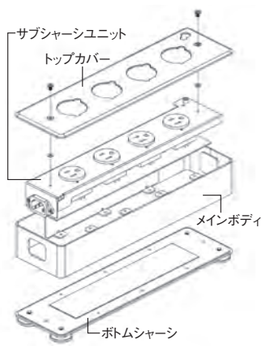
KOJO TECHNOLOGY

Platinum 4-VP

電源ボックス
¥310,200（税込）
※2025年9月5日発売予定
50台の限定生産

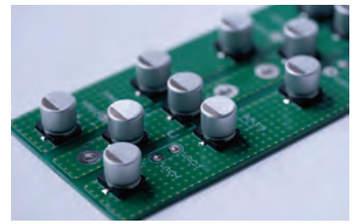
Specifications

●電圧:AC100V（定格AC125V）●周波数:50／60Hz●容量:1,500VA●相数:単相アース付き●ライン導体表面積(typ.):N/L／46,000cm²、GND／46,000cm²●絶縁耐圧:AC1,500V 1分間●絶縁抵抗:DC500V 100MΩ以上●インレット:3Pインレット（IEC60320 C14）●コンセント:3Pコンセント（NEMA5-15R）×4口●外形（アース端子含まず）:90W×63.8H×326Dmm●質量:2.3kg●付属品:マニュアル、保証書●取り扱い:㈱光城精工



メカニカル・アイソレーション・システム（M.I.S.）は、トップカバー、メインボディ、ボトムカバーに加え、内部にサブシャーシが設けられている。この構造により、サブシャーシユニットは連結部を除いて他の機構から完全に隔離される

本体上部にあるアース端子は、内部基板のグランドラインと外装ケースに接続されている



仮想アース技術が導入されており、電源タップ内のアースラインと電源ラインを強化。各出力コンセントに同社初採用のSMTタイプ・電解コンデンサを2個配置し、46,000cm²の面積が確保されている

35thアニバーサリ＋Jtuneモデル用特典として、特別にチューニングされた電源ケーブル（非売品）が、先着35名様にプレゼントされるキャンペーンも実施

富士山をデザインモチーフにしたステンレス製の専用インシュレーターも付属。インシュレーター底面には制振シートのハネナイトを採用する。4点支持と3点支持に対応